

第3節 北見市自慢話

■冬には欠かせない「ビリ砂利」

平成21年(2009)2月21日の北海道新聞「オホーツク北見版」、知究技の記載されていた記事では、凍結路面のスリップ防止に「ビリ砂利」を散布することを最初に実用化したのは、北見市ということです。

ロードヒーティングは建設費や維持費がかかり、砂はまいでも粒子が細かく風に飛ばされる欠点があり、その欠点を簡易舗装などでしか使われなかった粒子が大きいビリ砂利を活用することを思いついたそうです。

ビリ砂利は「ビリクツの砂利」の略で、直径3～5mmの大きさは砂としても砂利としても中途半端で用途が限られていたものが、スタッドレスタイヤの表面に食い込み、スリップ防止や歩行者の転倒防止に大好評を受け、現在では「冬アカー掃運動」も市民がビリ砂利除去に協力しています。

この冬あカー掃運動も、国内でも北見市は早く実施しています。

スパイクタイヤが禁止されたのが平成5年(1993)、北見市がビリ砂利を散布したのが翌年からというから、平成26年(2014)で21年間もお世話になっている「冬の必需品」です。

■北見北斗高校「強行遠足」

昭和7年(1932)から、野付牛中学校時代から続く伝統行事です。

強行遠足は、何事もやり通す意志の鍛錬と、旧制中学校5年間の記憶に残る行事に、との狙いから始まりました。

昭和7年11月12日の第1回目は、野付牛駅から留辺蘂、常紋峠、生田原、遠軽へと向かった鉄道沿線の強行遠足は、みぞれが降る悪天候の中での遠軽まで63.4kmが記録に残っています。

昭和18年(1943)第12回大会では、北見～置戸～留辺蘂～北見～美幌まで史上最長の101.7kmが残されています。

男子は71kmを、午前4時に出発し置戸・訓子府を経由して、午後4時半までにゴールを目指します。

女子は41.2kmのコースを、午前5時にスタートし訓子府で折り返し、午後1時40分までにゴールの、北見市ときわ公園を男女共に目指します。

現在は、交流のある山梨県の甲府第1高校生も参加し、何故か高校生には見えないOBのようなランナーが参加しているのも伝統行事がもつ楽しみの光景です。

各ポイントでは、OBや保護者らが飲み物やお汁粉など振舞い、交通整理など万全な協力体制で行われています。

北海道の高校で一番長い距離を走るとされる「北見市が誇る伝統行事」も平成26年(2014)で82回の開催となります。

* 北見工業高校は「仁頃登山マラソン」、北見緑陵高校は「カントリーマラソン」が行われています。

北斗高校といえば、オホーツクのラグビー部の始祖で、昭和22年(1947)に北見中学ラグビー創部、2年後の昭和24年、第28回全国高校ラグビー大会で2回戦進出で敗退、昭和25年北斗高校と改称した後、昭和26年・27年・59年・62年大会で準優勝と輝かしい成績が残っています。